

令和3年度 第3回 長浜市図書館協議会 会議録

日時: 令和4年2月24日 13時～14時30分

会場: ながはま文化福祉プラザ 会議室1AB (Zoom によるオンライン会議)

出席者: 塩見会長, 小西委員, 國松委員, 平井委員, 藤居委員, 阿閉委員, 小川委員, 藤田委員

欠席者: 川瀬委員, 内藤委員

事務局: 山内市民協働部長, 川瀬生涯学習文化課長, 下司長浜図書館長, 森長浜図書館副館長, 伊藤図書館第一係長, 大西図書館第二係長, 三宅主幹, 高橋主査

傍聴者: なし

【開会】

事務局から定数10人のうち 8 人出席により会議成立の旨を宣言し、長浜市立図書館管理規則第18条により、会長が議長となり議事を進行した。

【(1)令和3年度事業報告について】

事務局: 令和3年度事業報告について資料「令和3年度長浜市立図書館の主な事業」を見ながら説明する。本年度取り組んできた主な事業についての報告である。年度途中なので統計データについては、数値が確定した後毎年作っている事業報告書で報告する予定である。令和元年度からのコロナ禍ではあるが、いろいろと事業をしてきた。厳しい制約がある中ではあったが、できるだけのことをできるだけやろうという意識を持って取り組んだ。今日はここに大きく4つにまとめ、順番に報告する。

1つ目が、びわ湖東北部地域における学術文化教育基盤形成を目的とした大学・短期大学地域連携プラットフォーム事業である。図書館が若者世代の読書推進を図るための取り組みとして、滋賀文教短期大学および滋賀県立大学と連携をして、表にある5つの事業に取り組んだ。文教短大とは「本を紹介してみませんか2021～POP・本の帯コンクール～」、展示コーナーで「滋賀文教短大生イチオシ本」の2つの事業に取り組んだ。特に POP・本の帯コンクールについては、今年は570件の応募があり、この事業自体は5年目になるが、大変人気のある事業として定着してきたと感じている。滋賀県立大学とは「本みくじ」「100冊の笑顔展」の展示コーナー、さらに YA の本棚にある大きな黒板アートを新しくリニューアルして作成してもらった。図書館の展示を大学生の若い視点を取り入れたコーナーとして展開することにより大変好評を得ることができた。本みくじについては勉強編・人生編・恋愛編があり、2月3日から3月21日まで恋愛編を展示している。貸し出されるとまた追加するというようになっている。100冊の笑顔展については10月から11月にかけて行い、どの笑顔が良いか投票してもらい、結果は「あいさつ団長」という本が75票を獲得して1位になった。黒板アートは県立大の学生たちに新しく絵を描いてもらった。若い感性でポップな感じで良いと思っている。

2つ目の雑誌スポンサー制度について説明する。地域と連帯することで図書館を支援してもらおう仕組みの1つとして、令和3年6月から雑誌スポンサー制度を導入した。商工会議所や、商工会を通じて市内事

業所向けにチラシを配布するという形で広報を行い、現在6つの事業所・団体から21タイトル32冊の雑誌を提供してもらっている。

この事業については年間を通じてスポンサーを募集している。事業は1年単位で募集しているが、来年度は、今現在この4月からスポンサーがしたいという話を2、3件ほどもらっている。来年度以降もまだまだ広がるようにもっと周知に努めてスポンサーを増やしたいと思っている。

3つ目は、宅配サービス制度である。図書館に直接来ることができない人にも本を届ける仕組みということで利用者負担による宅配サービスの制度を5月から導入した。コロナ禍による利用も見込んでいたが、今のところ利用はない。ただし今後いろいろなニーズがあるので、これに応えられるようにサービスの1つとして周知を行い、必要な人に提供していきたいと思っている。

4つ目の新型コロナウイルス対策ということで4点ある。1点目はブックスタートタイムの実施ということで、乳幼児健診でのブックスタート事業ができなかったため、代わりに希望する人に来てもらい、読み聞かせなどを行うことを始めている。実績は2組あった。

2点目が、緊急事態宣言に伴う開館時間変更である。今年の8月の終わりから9月末まで滋賀県に出ている緊急事態宣言に伴い、館内の消毒作業の徹底などを図るために開館時間を1時間繰り上げて開館を続けた。また職員間の感染リスクを抑えるために、普段は勤務地域が日によって異なるが、固定勤務にすることで対策し開館した。1時間早く図書館が閉まっているということで、利用者から問い合わせをもらうこともあったが、特に大きな混乱もなかった。

3点目がおはなし会の中止である。コロナのリスクを少しでも下げるといって積極的に人を集めるのを避けることと、おはなし会の対象者が小さい子ども連れということもあるため、9月の緊急事態宣言中と、2月中もおはなし会は中止にしている。3月もまだこの状況が続くと思われるため、改善が見られるまでは、当分の間自粛となる。

4点目が本のオーダーパックサービスである。図書館に長時間滞在することなく本を借りてもらえる仕組みを作り、実施している。9月から10月の実施期間は利用実績が3件あった。小説や子どもの読み聞かせ用の絵本を受け付けて本を貸出した。

以上が簡単ではあるが、本年度取り組んだ事業の報告となる。コロナ禍で先行きの見通しが立たないが、今後少しでも利用者の要望にこたえられるようなきめの細かいサービス提供を心掛けて事業を実施したいと思っている。来年度はいよいよ本格的に第2期計画を推進していくスタートの年となる。計画に挙げている基本目標・重点目標の達成について、図書館協議会の皆様からの意見などをもらいながら充実した事業にしたい。今報告した事業について皆さんの意見を承りたい。

会長： 主な事業ということで4つの事業について紹介してもらった。何か質問はあるか。

委員： 地域の大学との連携について、これは今までの協議会ではそういう話がなかったように思うが、今年度からの事業なのかということと、こういう連携事業というのはどこからの働きかけなのかかわからないが、しばらく何年か続くものなのかということ。3点目が、理系の大学なので難しい部分があるかもしれないが、地元の長浜バイオ大学との連携はないのか。

事務局： このプラットフォーム事業は長浜図書館が初めて主体となって参加した。POP・本の帯コンクールは、文

教短大の主催で以前から長浜図書館も参加しているが、この POP・本の帯コンクールもプラットフォーム事業になる。プラットフォーム事業も数年前から形を変えて今の形になっており、以前からあったもの。

この地域に文科省から私立大学等に出ている補助金があるため、事業を計画して応募し、採択されて取り組んでいるもの。図書館主催の各種事業に取り組んだのは今年度が初めてとなる。彦根・米原・長浜の琵琶湖東北部の広域で大学の持っている知の力を生かして地域課題を解決するというもので、本当はバイオ大学等も取り組めるとよいが、本年度は初めてだったため、まず始めにということで、文教短大と県立大学で出した。POP コンクールは平井委員に長くお世話になっているが、こちらは彦根・米原・長浜広域ですでに取り組みがある。

会 長： 文部省はどこにこの補助金を出すのか。

事務局： 私立大学になる。

会 長： 大学から図書館へ働きかけるという形か。

事務局： 今年度はバイオ大学が事務局でとりまとめとなって、長浜図書館も参加している。

委 員： 雑誌スポンサー制度について、民間の企業でこれまでスポンサーをしていたが、コロナ禍でやめてしまうというところが結構出てきているが、長浜の状況はどうか。

事務局： 来年度の継続に関しては、これから各事業者にお願いする。

会 長： 雑誌スポンサー制度は何回も続いているのか。

事務局： 今年初めて。来年度 2 年目の継続になる。

会 長： 事業以外で、図書館全体としての来館者の状況等全般的な利用状況について報告することはないか。

事務局： コロナで利用者の人数は若干減っているが、それほど数値が極端に落ち込むということはない。年間通じて利用の動向も同じような流れになっている。

会 長： 職員の出勤のしにくさ等についても、格別困ったような状況はないか。

事務局： 固定勤務で人がなるべく交わらないように出勤体制を組んでおり特別体制になっている。日頃は皆が入り組んで仕事をしており、それができないことはデメリットだが、メリットとしては毎日同じ時間行くこととなるため引き継ぎや続きの仕事ができるなど、今できることを一生懸命やろうと頭を切り替えて皆が仕事をしている。シフトとしては限られた人員で組まなければならないため、その苦労はある。

委員：本の除菌のことが気になっていたのだが、図書除菌機の利用者が増えたとか、特に子どもの本などは、(除菌するための)職員が増える等、特別な措置をとっているのか。

事務局：長浜と高月には除菌機を置いている。感染が増えてくる時期はやはり利用件数はとても増えている。コロナとともに利用件数も増え、利用者の意識によって使われていることが、統計としてわかっている。特に絵本を借りる方は必ず入れて除菌してから帰るのをよく見る。

委員：除菌のため職員の人数が増え、手間がかかるということもあるのか。

事務局：実際には全部の本を拭いたりするのは事実上難しいが、日本図書館協会が出しているガイドラインによると、おおむね3日何もしなければウイルスが不活性化すると言われているため、大きな心配はいらないと解釈している。しかし借りて帰る方は少しでも安心したいという気持ちがあるため、除菌機を使う方自身の判断でやってもらっているということで、こちらでは来館したときや帰るときに手を消毒してもらうことをお願いしているが、直接本を全部拭き取ることはしていない。

会長：この間ワクチンの注射に行ったら、ちょうど図書館の入っている施設の中だったので、ちょっと覗いたら返却されたら2日間はしばらくこの本は利用できないとして別にしていた。ウイルスが2日ぐらいで死ぬということかと今の言葉を聞いて思ったが、そういうことも配慮事項に入っているのか。しばらく置くということをやっているのか。

事務局：長浜ではやっていないが、図書館によってはそのガイドラインに沿って徹底して行っているところもあると思う。

【(2)長浜市図書館基本計画(第2期)に基づく実施プランの評価について】

会長：では2つ目の基本計画に基づく実施プランの、新年度の評価のやり方について、事務局から説明を求めよう。

事務局：その前に、皆様には令和2年度の評価書を送っているが、館長から一言お礼を述べさせてほしい。

事務局：令和2年度の評価書の評価については、小委員会もオンラインを併用した形でしてもらい、しっかり評価をいただきながらまとめるのが遅くなり申し訳ない。会長からも講評をもらい、お礼を申し上げます。また目を通してもらって、何かあれば次の評価にも繋げたいと思っているのでよろしくお願いしたい。

事務局：改めて、2期計画の実施プランの評価について資料2「図書館基本計画(第2期)に基づく実施プラン評価方法について」を見ながら説明する。

1期の図書館基本計画のときには5年間の取り組みの工程を表にした実施プランがあった。実施するか検討するとか、5年間の行程を表した表を作り、毎年度これに基づいて皆様に評価をもらっていた。

2期計画は、計画策定のときからは想定していなかったコロナ対応や、この計画を推進する中で、サービスや、施設形態が大きく変化することが見込まれる。このため2期計画における実施プランとしては、前年度評価による課題の解決はもちろんであるが、そのときの状況に合わせて柔軟に対応するために、年度の目標を当初に立てたいと思う。その目標の中には、各基本項目に約10個ずつある重点的に取り組むこと、基本目標1の1から7番までの重点的に取り組むことを盛り込みながら、特に重点的に取り組むことなどを抽出し、年度ごとに成果指標、目標数値の達成に向けた目標を設定していきたいと思っている。つまり前年度を振り返りながら先も見つつ、毎年度取り組む目標を設定していきたい。

評価表については、サンプルとして示す。黄色く色づいているところ、目標の数値や目標を言葉で表すということを年度当初に行い、年度の終わりにはまた内部評価等を行うという流れとなる。

次に評価についてのスケジュールを説明する。評価についても、1期の計画と同様、内部評価に対する外部評価を行ってもらい、早期の公表を目指していく。今予定しているスケジュールとしては、今から今年度の内部評価を進める。統計的な数値は年度が変わらないとできないため、4月に数値を確定させる。職員による内部評価を5月頃に行い、次の第1回図書館協議会で報告し、その際に外部評価の方法も一緒に検討してもらおう。6月から7月にかけて外部評価を行い、8月に確定し、9月に公表する。本年度は大変遅くなったが、次年度はなるべく早くしていきたい。

評価基準も1期の計画を引き継ぎ、ABCDの4段階で行う。1期より具体的に評価ができるようパーセンテージでの目標も示した。今日は評価をするということまではいかないが、評価の方法について示した。

会 長： 再確認だが、これまでと特に違うところ、変えるところはどこか。

事務局： いわゆる矢印の表ではなく、毎年度毎年度の目標を立てていくというところが異なる。

会 長： 2番の評価基準値は特段変わるわけではないのか。

事務局： その通り。

会 長： 今の報告にあったように、評価の方法のところでは新しいアイデアを盛り込んでということのようだが、これまでのスケジュール、あるいは評価の基準その他は、これまでのやり方を踏襲しているということで、新しい第2期に基づく評価の進め方についてということが今の提案だと思う。何か小委員会の方でお願いするような形をとるとすれば、その方々に苦勞してもらおうことになるが、3年度の評価方法について質問、意見等あるか。

委 員： 評価基準について、ABCDというのがなかなか難しい評価方法だが、パーセンテージを入れてもらったということは非常にわかりやすくなった部分が大いのではないかと思う。

会 長： どの程度できたというこの数値に結果的に表せるような事柄というのは、外部評価ではなかなか判断しにくいと思うが、内部で職員がするときには、大体このようなことをこれまでも出してきたということか。それを

基準として今回表示したということになるのか。

事務局: 重点的に取り組むことについては、これまでも取り組んでおり、今後も大事なところなので、手を抜かずに強弱をつけて取り組みを進めていく。

会 長: 他になければ新年度に入って以降、これからの評価のやり方についてというのはこういう方針でやっていくということなので、またその委員に当たる方はご苦労だがよろしくお願ひしたいと思う。では、本日の協議事項としてはこの2点となる。

【お知らせ】

事務局: 今回この会議をもって、塩見会長、小西副会長、平井委員が退任することについて、館長の下司から挨拶を申し上げる。

事務局: 塩見会長、小西副会長、平井委員におかれては、図書館協議会の2年の任期を何度も更新してもらい、4期8年にわたり図書館にとって激動の時期を支えてもらったということになる。新館に対する懇話会からだ、足かけ10年近く3人に関わってもらったということになる。

度々の会議に際しては、客観的かつ的確な指導、意見を賜った。時には厳しく意見をもらったり、また評価においても、よく頑張っていると励ましてもらい、本当にお世話になった。心から感謝申し上げる。今後ご縁を大切に、図書館運営をしていきたいと思っている。委員の皆様には今後も図書館に深い関心を寄せていただき、ご支援をお願い申し上げ、簡単だがお礼の言葉とする。

事務局: 本来なら一人一人からお話しいただきたいが、時間の都合で申し訳ないが代表として塩見会長から一言いただきたい。

会 長: 懇話会から始めると10年ほどになり、結構長浜に通ったなど今改めて思う。それを最後がこういうかたちの会議になって大変残念な気もするが、先ほど紹介があった実施プランの令和2年度の評価書で、去年1年間だけでなく、何年かを通した感想めいたことを丸2ページほど書かせてもらった。

長浜図書館の利用というのは、日本図書館協会が毎年、日本の図書館のデータを基にして人口段階別に活動の盛んな図書館、要するに貸出密度上位何%という、ある人口段階クラスの中で相対的に考えたら、上位の10%、1割に当たる図書館のデータを平均して出している。それをもって、各図書館の頑張りどころの目安みたいなもので参考資料となることを毎年度やっている。長浜の場合には人口11万ぐらいなので10万から15万というそのクラスのデータが図書館雑誌で去年は6月に出ており、10万から15万クラスの人口段階の長浜図書館はトップ10には入らないが、固有名詞が出てくるわけではないのでわからないが、日本の図書館から少し推測的に見ると、ちょっと後ぐらいに続くぐらいのところ、トップ10から20位ぐらい、12、3%ぐらいのところ、にランクされているのかという感じがする。

長浜は面積が非常に広域になっており、中心地が長浜のかなり端に偏っているということでもしんどい面もあるが、相対的にはかなり頑張っていると見ていいと思う。

職員は市全体を含めて一定の努力をしていると思うが、今回の報告書の文章の最後にも上げているとおりどう考えてもやはり今の職員体制はそういう事業をより発展的に進めていくという観点から見るととても大きな問題を含んでいる職員構成であることは否めない。確かに中心の幹部職員のところはキャリアのある専門職の人たちだが、日常活動を担っている非常に多くの部分が任期期限付きの職員という形で保っている。私はつま先立ちをしてかろうじて頑張っているという姿を感じざるを得ない。いつまでもつのか、ガタガタと壊れてしまいそうと感じる。あるいは先々発展的に進んでいく体制がこれで果たして保証されているのか、とても危なっかしいという感じを受けざるを得ない。

今本当にギリギリのところによくやっつてほうだと思いが、せっかく新館ができたのにコロナとぶつかったものだから手応えが具体的に内部にも外部にも実感できるような成果を上げられなかったのは本当に勿体ない残念なことだと思う。トップ10とは言わないにしても12、3%ぐらい、上位10位の次ぐらいのところにいるという点では、よく頑張っている方だと思うが、これをさらに発展的に強化していくには、そのための基盤整備が極めて弱いということは歴然としているので、今日市民協働部の事務局サイドの方、あるいは教育委員会は離れているが、生涯学習等というところも含めて、もちろん市長含めて、図書館の今後について危機感を持ってぜひ一層の力入れをしてほしいと思う。

まだまだ長浜市政全般の中での図書館行政についての認識の度合いというのは非常に心もとないものを感じざるを得ない。10年ほどお付き合いをして、長浜図書館の有り様についてささやかながら意見を言うというようなことを続けてきたが、私も年からいっても、そうそう今後を見る余裕があるわけではない。距離的にはちょっと離れているので、長浜図書館そのものを感じるということはあまりできないと思うが、そうした新たな要素が加わることによって、長浜図書館の一層の発展をお願いする。

10年ほどお付き合いをしてきたことの感想として申し上げて、一応私の方からもお礼の言葉としたい。委員の皆さんからいろいろ協力いただいたことについても感謝申し上げたい。

この後子ども読書の方の協議があるので、本協議会としてはこれで終わりになるが、小西委員も今回で退任ということなので、小西委員からも感想なども含めて言ってもらって、協議会としては閉めたいと思う。

委員： 私も最初の方の頃から図書館協議会に関わり、もう最後かと思うと寂しいような思いである。塩見会長が最後に書いて今も話してもらった「図書館評価を終えて」を読み、今までの日々を振り返ったりもしたが、今回の評価のまとめを見て、新しい図書館になったことで効果を上げていると思ったのは、やはり他の団体とか市民との距離が前より近くなっていると思われる点である。図書館単体だと足を運べなかった方がついでという形で来たり、事業なども一緒にやりやすくなったという点がよかったことと思いながら読んだ。

私も長浜を離れてしまってから他の図書館に行くこともあるが、今までの経験を踏まえて、他の図書館を見ることができたり、また違う視線を変えたり、反対に長浜に向けたりできるようになったことが、10年間の経験と思って感謝している。孫もこれから図書館に関わる機会が増えると思うので、自分の生活の中でも図書館との関わりを色々な点から見て、自分の住んでいる地域でもそれが活かしたら良いと今は感じている。色々な勉強をさせてもらったことに感謝する。

会長： 平井委員から何かあるか。

委員： 色々とお世話になり、そして色々図書館のことを知ることができたことは、図書館のことを考える上で本

当によかったと思っている。大学として今後もお世話になっていく図書館であるので、今後ともよろしく願いしたい。

以上